



木のお友達をつくろう (クラフト)



1 プログラムの概要

- ① 内 容 公園などの身近な自然に出かけて、木切れや葉っぱなど、もったり摘んだりできる材料を持ち帰り、工作する。
 - ② 場 所 公園や庭、室内
 - ③ 時 間 20分前後
 - ④ 準備物 木工用ボンドや両面テープ、木切れ (直径2.5～3cm, 長さ7～8cm), 服や飾りにする自然の落とし物※1, 余り布 (無くてもよい), 綿, マジック, 動眼※2 (無くてもよい), ビニールシート※3
- ※1 自然の落とし物…葉っぱ・花びら・木の実など。(身近な自然との触れ合いから多様な学びを得ることができするため、自然の落とし物で作ります。)
- ※2 動眼とは手芸用の動く目玉 (6～8mmくらい)。
- ※3 工作を行う時に敷く新聞紙やレジャーシートなど。

2 ねらい

- ・ 親子のコミュニケーションづくり。
- ・ 日常生活において身近な自然の中にある素材 (木・落ち葉等) と諸感覚を通して触れ合うことで、自然に親しみを持ち、自然体験の面白さや楽しさを感じる。
- ・ 身近にある小枝などに自分自身で創意工夫しながら顔や服をつけることにより、擬人化された「木のお友達」を生み出す豊かな想像力や感性を養う。

3 プログラムの進め方

プログラム内容	保護者の関わりのポイント
<p>(導入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本の材料を準備します。(1④準備物を参照) (1) 木切れの代わりになるもの <ul style="list-style-type: none"> ・ 紙コップ ・かまぼこ板 ・紙粘土 など (2) 動眼の代わりになるもの <ul style="list-style-type: none"> ・ 厚紙を丸く切って目を書く ・ マジックで木切れに直接目を書く など ・ 子供に木切れを見せて、「葉っぱやお花でお洋服を作ってあげよう」と伝えます。 	<p>【参考】</p> <p>「木のお友達」(下記)を見せて、「こんにちは！僕のお友達を作ってほしいな」などと、人形が子供に語りかけて、作ってみたい気持ちを高める方法もあります。</p> 
<p>(材料集め)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 袋を持って親子で散歩に行き、工作材料にする落ち葉や木の実を拾ったり、葉っぱやお花を摘んだりして、持って帰る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「どんなにおい?」「大きい・小さい」「短い・長い」「丸い・四角」「トゲトゲ・ツルツル」「ひとつ、ふたつ、みつつ」など、子供が諸感覚を通して自然を体験できるような声かけをし、子供の発見を親子で楽しみましょう。(あまり意識しなくても、親子遊びの中で自然と出てくると思いますが。)

<p>(遊び方1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 木切れに、ボンドや両面テープで自然物や目をつけて、人形を作る。 ※ 余り布があれば、帽子をつけるなどの工夫をして楽しみましょう。   <p>・作品完成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子供が「自分で作った」という気持ちになるように、そっとサポートをしましょう。 作品づくりが目的ではなく、素材の組合せや試行錯誤など、子供の発想を楽しみ、創作イメージに寄り添いましょう。 <p>【子供への声掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 望ましい例 「なるほど、いいね!」 ○ 望ましくない例 「どうしてそんなところに付けるの」 <ul style="list-style-type: none"> 材料集めの時と同様に、工作中も、色や形など、自然の面白さや美しさを意識するような声掛けをしましょう。 一生懸命に作った人形の完成を、親子で一緒に喜びましょう。
<p>(遊び方2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ボンドが乾いたら、完成した人形で遊ぶ。 <p>【名前をつける、子供から親に紹介してもらい、二つ目を作って人形遊びをする、棚に飾るなど。】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 完成した作品に対して、子供は特別な愛情があるので大切に扱い、子供の気持ちに共感しましょう。
<p>(ふりかえり)</p> <ul style="list-style-type: none"> 出来上がった人形を見ながら、葉っぱやお花の色やカタチの美しさや可愛さをふりかえりましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然に親しみを感じる経験を繰り返しましょう。

4 全体を通しての、保護者の関わり方

- 危険なとき以外は、子供の行動を制止せず、見守りましょう。
- 親子で一緒に手作りとおしゃべりを楽しみましょう。

5 服装他

自然の中で活動する時は、長袖シャツ・長ズボン・帽子・靴下・運動靴（又は長靴）を身に着けることで、ケガや蚊・マダニ・蜂に刺されること、熱中症を予防します。また、虫除けスプレーを肌や服に吹きかけて出掛けましょう。

6 安全確認

- 自然の中では、かぶれる葉っぱや毛虫、特に草むらではへびやマダニなどに注意しましょう。また、夢中になって道路に飛び出したりしないように、子供の安全についてサポートしましょう。
- 自然の中に出かけた後は、服についたゴミやマダニを落とすために全身をはらい、ケガや虫刺されがないか、チェックをする習慣をつけましょう。
- 葉っぱや花を取る場所が、採取してよい場所かどうか、大人が確認して教えましょう。社会のルールに出会うチャンスでもあります。